

教職をめざす学生を応援するフリーマガジン

2014
autumn
vol. 2

EDU PONT

エデュポン

立教大学現代心理学部
2013年卒業

南沢奈央さん
女優

特集

学校にまつわる 素朴な疑問

CAMPUS
SNAP

【関西編】

京都教育大学、同志社大学

自分の大学の
好きなところは？

【関東編】

中央大学、学習院大学

今でも覚えている
先生の言葉は？



Content

03 教育リレーコラム
佐藤学さん
一人残らず子どもを
学びの主権者に

05 活躍する先輩たち
野口涼太さん
「子ども第一」だと苦勞一つひとつが
やりがいになる

特集

学校にまつわる
素朴な疑問

10 学長が語る
後藤ひとみさん
子どもの生活背景を理解し
「実践力」のある教員に

11 データで見る教育現場
知っていますか？
自分たちが進む
教育現場の現状

12 今さらきけない教育問題
教科書の「検定」と「採択」
樋口修資さん

14 教員が薦める本
自分で引き受けるという気概
「生きる悪知恵」
「私の浅草」
山本和代さん

15 表紙の人インタビュー
南沢奈央さん
4年間はあつという間
失敗を恐れずに経験を

18 キャンパススナップ
自分の大学の好きなところは？
今でも覚えている先生の言葉は？

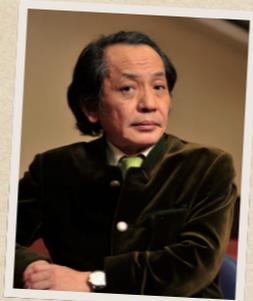
20 教員志望学生お悩み相談室
瀬戸剛さん
小林竜幸さん

22 一芸は百芸に通ず
立川志の彦さん
落語家と教員の共通点は
受け手にどう伝えるか



一人残らず子どもを
学びの主権者に

「教育リレーコラム」二回目は、教育学者として学校改革の
実践で知られるなど、日本の授業研究をリードしてきた佐藤学さん。
今回は、「教員になる前、今だからこそ学生に伝えたいこと」を
テーマに寄稿いただきました。



佐藤学さん
(さとう・まなぶ)

学習院大学文学部教授。東京大
学名誉教授。教育学博士。全米
教育アカデミー会員。アメリカ
教育学会名誉会員。前日本教育
学会会長。多数の著書が英語、
ドイツ語、フランス語、中国語、
台湾語、韓国語、インドネシア
語に翻訳されている。

イラスト：岡田 文

2 012年の調査結果
によると、子どもの
貧困率(※)は史上
最高の16・3%に達した。一人
親世帯の子どもの貧困率は54・
6%、いずれも先進諸国では最
悪水準となった。東京や大阪な
どの都市部の学校の子どもの貧
困率は30%を超えている。

OECD(経済協力開発機
構)は2000年以来、3年ご
とに国際学力調査(PISA調
査)を行ってきたが、その総括
レポート(2012年)におい
て学力格差の最大の要因が「社
会経済的背景」にあることを指
摘している。興味深いことに、
この総括レポートは、学力格差
に対応してきた国としてフィン
ランドと日本の二つの国を評価
している。フィンランドは、社



会全体の経済的格差を最小にす
ることによって学力格差を克服
した国として評価され、日本は、
この10年余り、貧富の格差が著
しく拡大したにもかかわらず、
教職員たちの努力で、そのダメ
ージを最小限にとどめている国
として評価されている。この評
価は妥当と思うが、教職員たち
の献身的努力は、もはや限界に
達していると言っただらう。

大学に奉職して以来35年、毎
週、2校から3校のペースで、
全国の幼小中高校を訪問して、
学校を内側から変える改革に協
力してきた。その経験から言っ
ても、今日の子どもの貧困は深
刻である。教室では平均して6
人に一人、都市部の学校では教

室の3人に一人が貧困を抱えた
子どもたちである。荒れる学校、
学級崩壊、問題行動、低学力、
いじめ、不登校、情緒不安定な
ど、数々の危機的事象の根底に
貧困の問題が横たわっている。

この現実、教職員たちはど
う立ち向かえばいいのか。その
一つの解決が、私の推進してい
る「学びの共同体」の学校改革
と授業改革である。一人残らず
子どもの学びの権利を実現する
ことを追求して、一人も一人に
しない教室、協同の学び、質の
高いジャンプの学びを組織して、
すべての子どもが主人公となる
学びを教室に実現している。現
在、この改革に参加している小
中高校は3千校を超えている。
この改革を通じて、学んだこ
との一つは、子どもは学び続け



る限り、決して崩れないとい
うことである。どんなに荒れた学
校でも、どんなに困難を抱えた
学校でも、一人残らず子どもの
学びを実現することで、「奇跡
的」とも言える改革が実現し、
学力も飛躍的に向上する。子ど
もにとって学ぶ権利は人権の中
心であり、生きる希望なのであ
る。

これからの日本にとって最も
必要なことは、一人残らず子ど
もを学びの主権者として育てる
ことにある。教職員も保護者も
市民も、この一つの目的で子ど
もたちと連帯すべきなのである。

※等価可処分所得の中央値の半分(122万円)以下の世帯で暮らす子どもの割合



撮影協力：同志社大学



野口涼太さん
1988年北海道生まれ。2007年3月、札幌市立札幌新川高校を卒業し、同年4月に北海道教育大学旭川校に入学。10年、教員採用試験に合格し、11年から北海道利尻郡利尻富士町立鴛泊中学校教員として勤務。サッカー部の顧問を担当し、社会人サッカーチームにも所属。

「子ども第一」だと
苦勞一つひとつが
やりがいになる

利尻富士町立鴛泊中学校教諭

野口涼太さん

中 学の時、生徒会役員をしていました。生徒会の顧問は3年時の担任でもあったので、学級と生徒会活動の両方で密に接してました。その先生の「常に子どものことを第一に考える」姿に触れて、「私もこうありたい」と教員を志しました。

高校卒業後、北海道教育大学に進学し、小学校一種と中高の保健体育一種の免許を取得しました。在学中は、先輩の紹介でスポーツ用品店でのアルバイトも経験しました。接客を担当し、言葉遣いや笑顔での受け応えなど、人と接する上での基本を学びました。当時、教授の中には、

「教員になるならアルバイトは必要ない」と言う方もいましたが、振り返ってみると、教員も社会で働く一員。あの時、社会勉強の機会があって本当に良かったと思っています。
また、幼稚園の頃から続けているサッカー関係の活動もしていました。大学時代には日本サッカー協会の公認キッズリーダーの資格を取得して幼稚園で指導したり、夏休みや冬休みには、母校の札幌新川高校で指導したりしていました。幼稚園児と高校生という年齢も技術も全く異なる世代を指導できたのは、とてもいい経験になりました。
利尻島に初赴任した当初は、離島での生活を家族や友人に心配されましたが、「どんな場所でも、とにかく教員としての経験を積みみたい」との一心で全く気になりませんでした。
でも、そんなやる気とは裏腹に、初めての授業や慣れない土地での生活から、一年間で4回も風邪を引いて学校を休んでしまいました。「授業だけでなく、自己の体調管理も職務の一つ」なのだと思っていました。今年で4年目を迎えます。冬の厳しい寒さや、天候の影響で

物資が届かない不便さはありませんが、学校行事で自転車に乗って島内を一週したり、利尻山に登ったりと、この島ならではのとりくみができるのは大きな魅力です。子どもたちもそんな島が大好き。この環境で教えられることを誇りに思っています。
教員をめざす大学生のみなさんに伝えたいのは、教員の仕事は単純に楽しいことばかりではないということです。授業の準備や事務作業など、子どもの視点で教員を見ていた時には気付かなかった業務が多く、思い描いていたこととは違う部分もあります。「大変だから他の仕事に就いたほうがいいよ」と、大学時代に先輩教員の方から言われたのを思い出しますが、今では、「苦勞の一つひとつが、きっと子どもの成長に繋がるはず」と、やりがいと捉えています。
授業の仕方や子どもへの接し方など、今でも一筋縄ではいかないと感じることは多々あります。そんな時こそ、私に教員をめざすきっかけを与えてくれた中学時代の担任のように、子どものことを第一に考えて、向き合っていきたいと思っています。

活躍する
先輩たち

VOL.2



同じ夢をめざす仲間と
今しかできない経験を!



「EDUPONTエデュボン」は、学校や地域という枠を超え、様々な形でこれから「教育」を担っていく学生のみなさんを応援するコミュニティマガジンです。媒体の制作を通じて、全国の教育学部生の交流の場、学生が自由に「志」を抱き、行動に移すための有益な情報や活躍の場を提供することをめざしています。「EDUPONTエデュボン」の制作に加わってくれる全国の大学生のみなさんの応募を心よりお待ちしております!

EDUPONT 大募集!

エデュボン 大学生特派員

- 【応募条件】 教員志望もしくは教育に興味のある大学生
 - 【活動内容】 ①年2回程度の編集会議への出席*1 ②編集会議で担当が決まった企画の企画立案、取材、原稿作成*2
- *1:編集会議は東京で開催。往復交通費等は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。
*2:取材経費(交通費、宿泊費等)は「社会応援ネットワーク」が負担いたします。実働内容に合わせ、薄謝ですが謝礼もご用意しています。

【応募方法】 E-mailにて、件名に「エデュボン大学生特派員参加希望」、本文に①氏名 ②大学名 ③学部学科 ④学年 ⑤電話番号を記載の上、
edupont@shakai-ouen.comまでご応募ください。
(なお、応募状況によってご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。)

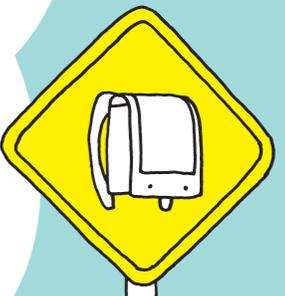
社会応援
ネットワーク

Q 制服が変わる時は、
 どのような手順で
 決まってくるの？



A 学校の伝統・イメージ形成において重要な役割を担っているのが制服です。近年、特に高校では時代にあった制服を取り入れることによって、イメージアップを図っている学校もあります。制服が変わるタイミングは大きく分けて二つあります。

一つ目は、校名変更や近隣学校との統合に伴い、制服も新たに變更される場合。二つ目は、機能や



Q 小学校には
 ランドセルで通わなければ
 ならないの？

A ランドセルで登校しなればならない、との義務はありません。基本的には保護者や子ども本人の判断ですが、小学校や自治体が独自に指定している場合もあります。遠くから通学してくる子どもが多い学校では、通学の邪魔にならぬよう、ランドセル以外のバッグでの登校を勧めることも。ランドセルで登校するよう規定を設けている学校でも、成長期を迎え、ランドセルが体に合わなくなった高学年の子どもに対しては、リュックや手提げバッグ

での登校を許可している例などもあります。

ランドセルには、6年間使える丈夫な作りであること、両手が自由に使える、後ろに転んだ時にクッションとなるなど、安全面でのメリットもあります。これまでの慣習もあり、大部分の小学生がランドセルで登校をしているのが現状です。最近のランドセルは、カラーバリエーションも豊富。ランドセルを背負って小学生が歩く光景は変わりませんが、色とりどりのカラフルな景色になっています。

特集 学校にまつわる 素朴な疑問

「小学校にはランドセルで通わなければならないの？」
 「掃除の時間はなければならないの？」
 編集会議の際、学生特派員から挙がった学校にまつわる素朴な疑問に、エデュポン編集部が独自調査し、お答えします。



Q 学校に設置される
 部活の種類はどうやって
 決まっているの？

A 中学校や高校では非常に多くの種類の部活動が存在し、なかにはジャグリングやガーデニングなど、ユニークな活動をしている学校もあります。部活の種類や活動に関しては、子どもたちの希望や地域性、学校の実情を考慮した上で決定されています。

都心部では、校庭が狭く十分な活動スペースが確保できないという理由から、野球部かサッカー部のどちらかしか設置できないという学校もあります。つまり、必要な部活動の種類についての定めはありません。

学習指導要領によると、中学校や高校の部活動は課外活動として

Q クラス替えは
 どうやって決めているの？

A クラス替えは、毎年行うケースもあれば、数年に一度のケースもあり、特に規定があるわけではありません。クラス替えのタイミングやクラスを分ける方法などは、それぞれの学校で様々な角度から検討され、決定されています。

クラス分けをするには、旧学年の担任や養護教員など、学校の教職員が子どもたちの交友関係なども考慮しながら相談を重ねて調整

し、管理職が決定することが多いようです。パソコンで作成された一覧表で検討したり、子どもたちの名前を一人ずつカードにし、テーブルいっぱい広げて相談するなど、各学校によって様々な方法で決められています。

また、国や自治体によってクラスあたりの人数が規定されているため、子どもの転校などで変更が生じると、年度の途中でもクラス替えが行われる場合もあります。



■回答内容の主な出典
 文部科学省・自治体・教育委員会・
 学校のホームページ、学習指導要領、
 現任教職員へのヒアリングなど。

	月	火	水	木	金
1	体育	体育	体育	体育	体育
2	体育	体育	体育	体育	体育
3	体育	体育	体育	体育	体育
4	体育	体育	体育	体育	体育
5	体育	体育	体育	体育	体育
6	体育	体育		体育	体育



Q 学校の時間割はどうやって決まっているの？

A 学校によって時間割は様々です。う学校がほとんどです。休み時間についても、「給食休憩などの時間については学校で工夫して適切に決めること」とされており、学校の裁量に任されています。

学習指導要領で小学校や中学校のそれぞれに教科ごとの標準授業時数が定められています。それに達してさえいれば、各学校は授業の時間割だけではなく、休み時間なども自由に決めることができます。

学校は、教員の在籍数や教室数を考慮して時間割を組みます。災害などの予想外の出来事が生じた際に、授業時間が不足しないよう標準授業時数より多めに授業を行

う学校がほとんどです。休み時間についても、「給食休憩などの時間については学校で工夫して適切に決めること」とされており、学校の裁量に任されています。各地域の特色に応じて長期休みの長さにも違いがあります。例えば、北海道の学校では全国平均と比べて夏休みが短く、その分、冬休みは他の地域よりも長くなっています。これは雪の影響などで登校が難しくなることを考慮して、このような形になったよう

Q 公立学校の設備や、予算はどうやって決まっているの？

A 全教室冷暖房完備、エレベーター、電子黒板やタブレットの導入の有無など、公立でもそれぞれの学校によって設備は大きく異なります。設備や学校の予算決定の基準は、学校の所属する自治体によって様々です。東京都23区の場合、予算には二種類あり、学校が執行する予算と、各区の教育委員会が執行する予算に分かれています。学校が執行する予算は、学級数や児童・生徒数などによって決定されます。また、学校で執行する予算の範囲は区によって異なります。

年度当初に消耗品費や備品購入費、修繕費など様々な品目の一年分の予算が一括して配当されます。この予算を各学校で有効に使うため、「予算編成方針」を作成し、さらに具体的な「予算執行計画」を立案しています。学校ごとに年間の予算計画を策定する「予算委員会」があります。委員会では、学校の事務職員が中心となり、「予算編成方針」や「予算執行計画」の検討など、配当された予算を十分に活用するための方法を協議します。そして、予算委員会や職員会議での決定に基づいて予算が執行されます。



Q 教員の配属や転勤はどうやって決まるの？

A 10年以上同一校に勤務する教員もいれば、数年で転勤する教員もいます。公立学校の教員の配属や転勤に関しては、一般的に、都道府県や市町村ごとに人事異動対象となる同一校勤務年数が定められています。

例えば、東京都では同一校で3年以上勤務する者を異動の対象としており、また、同一校での勤務の上限を6年としています。例外として、学校長や教育委員会が学校に必要と判断した場合などは、6年を超えて勤務し続けることもあります。

一般的な流れとしては10月頃に、異動に関する意向を含む調査に教員が記入し、教育委員会がそれらを検討して人事異動を行います。内示は、3月頃に発表となることが多いようです。

自治体によっては、小学校と中学校を区別せず異動の対象としている場合もあります。特殊な例では、転勤にFA制度を取り入れている自治体もあります。自らの得意分野を伸ばすため、教員自身が異動先を募集し、受け入れ側の意向と合致した場合、異動が行われる制度です。



Q 掃除の時間はなければならないの？

A 掃除をしなければならぬ規則があるのかを調べてみると、学習指導要領に「清掃などの当番活動等の役割と働くこととの意義の理解」と表記されています。当番活動とは、子どもが学校や学校生活維持のために行うものと位置づけられています。清掃などの当番活動は、多くの学校では、主に学級活動の授業時数外の時間（主に放課後など）に行っている場合がほとんどですが、学級

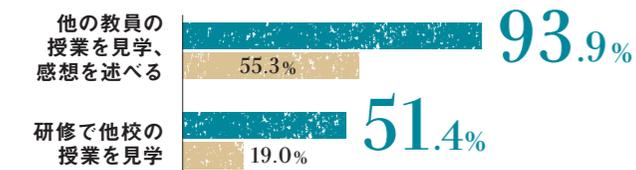
活動においても適切に取り上げ、当番活動の役割や意義などについて計画的に指導する必要があるとされています。日本の学校は、諸外国と比べて、生活に関する面も教育活動の一環として扱われている場合が多いです。清掃の他、当番が配膳を担当することが多い給食や、黒板を掃除するなどを行う日直、学校にある動植物の世話をすることなども、この活動に当たります。

特集 学校にまつわる素朴な疑問

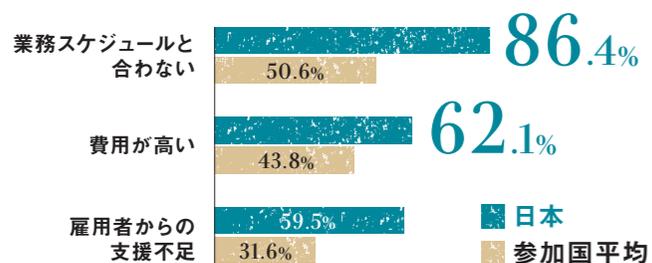




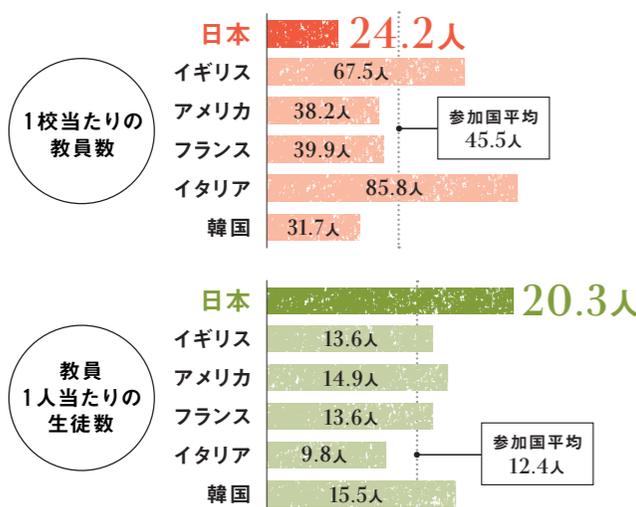
グラフ2 授業見学の実施状況



グラフ3 研修参加への妨げ



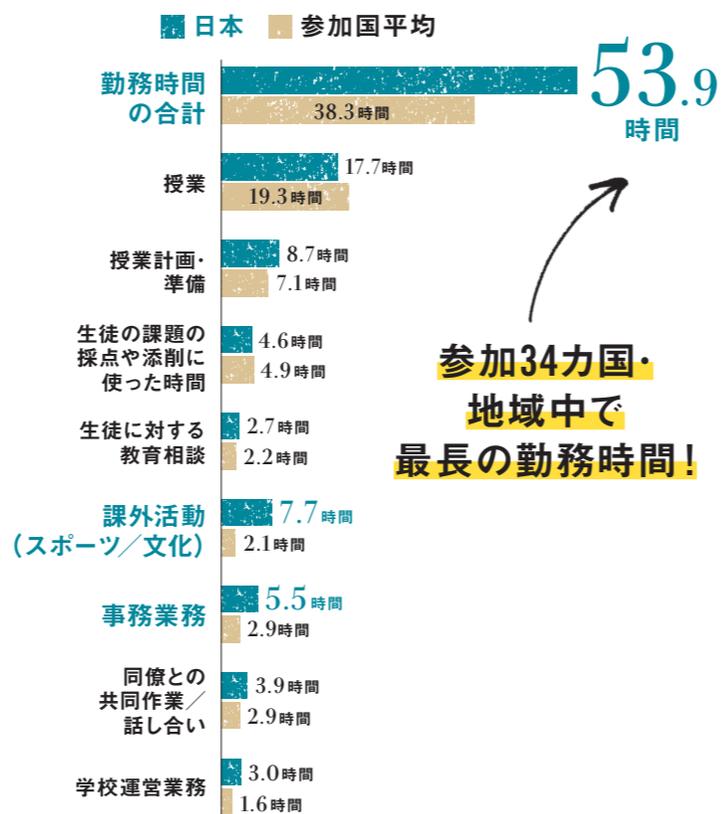
グラフ4 学校規模の各国比較



知っていますか？ 自分たちが進む 教育現場の現状

出典：国際教員指導環境調査 (TALIS2013)
※34カ国・地域が参加するOECD調査
※日本は中学校約200校の校長、教員(非正規含む)を対象(国公立90%、私立10%)

グラフ1 1週間あたりの勤務時間



参加34カ国・地域中で
最長の勤務時間!

本 年6月、OECD(経済協力開発機構)は、中学校の学習環境と教員の勤務環境に関する国際調査(TALIS2013)の結果を公表した。日本の教員の「1週間あたりの勤務時間」は、参加国中最長の53・9時間。授業時間には他国と差はなく、事務業務や課外活動など、授業外の業務に多くの時間を費していることがわかる(グラフ1)。

日本では、教員同士の学び合いが盛んだ。これは、「他の教員の授業を見学、感想を述べる」「研修で他校の授業を見学」の数値が高いことから明らか(グラフ2)。しかし、研修参加にあたり、業務スケジュールや費用が妨げになっていると回答する教員が多く、支援の必要性が指摘される(グラフ3)。

教育現場では、少人数学級や、子ども一人ひとりに対してのきめ細かい指導が求められている。しかし、日本の教員1人が抱える生徒数は、参加国平均が12・4人であるのに対し、20・3人と、参加国中でも多くなっている(グラフ4)。

調査目的の一つは、「教育政策の検討に資すること。これらの現状が、改善されることを期待したい。

教育現場の実態が明確に 参加国中最長の勤務時間

愛

知教育大学は、「教育の総合大学」として、学校教育にかかわる高度な専門職業人を養成してきました。幼小中高特別支援、そして養護教諭という様々な職種・職種の教員免許の取得が可能で、2013年度には、教員養成課程卒業生の72%、約500名が教職に就くなど、教員就職率は全国トップでした。

今年度からは、「実践力」「高度化」「再教育」をキーワードに、教員養成プログラムの充実を図っています。教育大学以外でも教員免許取得は可能です。本学のような単科の大学が教員養成をする意義を考えた時、その答えは真に「実践力」のある教員を養成することだと考えます。教育現場では、様々な問題で情緒が安定せず、学習環境が整わない子どもへの対応も迫られます。教員には、勉強を教えるだけでなく、子どもの生活背景に向き合う力も求められるのです。「実践力」のある教員養成のため、教員養成分野の「高度化」に対応できる研究者育成にも力を入れています。現場経験のある人材を積極的に登用するため、既存の論文重視、学位重視の業績審査とは違った審査を行う必要もあります。また、12年には静岡大学との協力で教員養成大学の教員育成などを目的とする博士課程「共同教科開発学専攻」を開設しました。修士課程や博士課程を充実させる背景には、卒業後、現場で働く教員が壁にぶつかった時、再び学べる「再教育」の場を提供したいとの思いがあります。近年では、大学院で専修免許状を取得する機会拡充のために創設された、「修学休業制度」を利用して昼間に学んだり、勤務後に夜間講義で学んだりする現職教員も増えています。

「教員免許の取得」と「教員になること」はイコールではありません。「教員免許を取得し、試験に合格すれば教員になれる」と、安易に考えられては困るのです。「教員になる」という明確な目的に向かい、教育の分野に特化したカリキュラムが組まれた教育大学で学ぶ。本学を含め、それぞれの教育大学は、質の高い教員を育成する上で欠かすことのできない存在だと感じています。



学長が語る vol.2
愛知教育大学 編

子どもの生活背景を理解し 「実践力」のある教員に

愛知教育大学長
後藤ひとみさん

様々な大学で教員免許の取得が可能となる中、愛知教育大学をはじめとする教育大学で教員養成を行う意義とは……。後藤ひとみ学長に語っていただきました。



Profile
1956年北海道生まれ。80年北海道教育大学教育学部旭川分校卒業。82年、愛知教育大学大学院教育学研究科修士課程修了後、愛知県内の小学校養護教諭に。86年同朋大学専任講師、97年北海道教育大学助教授、2002年愛知教育大学助教授、05年同大学教授を経て、14年4月から愛知教育大学長に就任。